

雨もしたたる祭りかな

二代目藤姫に田中絵里菜さん「弁城夏祭り」

前日の「水と灯火の夕べ」は中止、この日も雲行きが危うい…。でも天候はギリギリもつてくれました。8月27日、ほうじよう温泉ふじ湯の里で実行委員会主催による「弁城夏祭り」が開かれました。会場には7百人が集まり、バザーやステージを堪能。玄海古賀太鼓が勇壮な鼓動を響かせた後、メーンのミス浴衣コンテストが行われました。藤姫を決めるこのコンテストに5人がノミネートし、8月11日から行われた館内利用客の投票の結果、今年成人式を迎える田中絵里菜さん（弁城）が見事二代目藤姫の座に輝きました。しかし、心配していた雨が表彰が終わったところ大降りに。豪華景品が当たる抽選会を9月3日に順延し、花火も雨の間を縫うようにして短時間で打ち上げました。終始天候に悩まされましたが祭りは無事終了。雨の中でも決して祭りの情熱に水を差されることはなかった「弁城夏祭り」でした。

二代目藤姫



ミスコン優勝の田中絵里菜さん。「温泉にはあまり入ったことがないのですが、藤姫になったからにはPRのため精いっぱい頑張ります」と喜びを語りました。



町長日誌

▼9月17日、午後4時30分。役場3階の町長室から窓外を見ながら書いている。非常に強い台風13号が接近し、夜間にその影響が出そうだというところで、正午に、災害警戒本部を設置した。町管理職や消防団幹部と緊急に打ち合わせ会議を行い、その対応について確認し合った▼15年前、各地に甚大な被害をもたらした台風19号と勢力も予想進路も酷似しており、とても心配だ。当時の状況は鮮烈な印象で記憶に残っている。特に、風の音が違っていたのが忘れられない。そうしたことを思いながら、外に目をやると、低く垂れ込めた雲の中から、勢いよく無数の雨が弾き出されている。そして、木々が激しく揺れ、今にも根こそぎ飛ばされていきそうだ▼わたしたち人間に、自然界の現象に抗う術はないが、人の輪（和）によって、受けた痛みを和らげることができている。その役割のかんりの部分を果たしているのが地域の消防団であり、町内会の人たちであると思う。最近、町内会に加入しない人（家庭）が増えているが、とても大切なものを手放しているようで、本当にもったいない気がする。よく、遠い親戚より近くの他人、と言われているように、まわりの人の温かい人情に触れ、心を熱くするような経験は、どんな人でも必ずあると思う▼願わくば町内すべての人が一つの絆で結ばれ、どんなことでも協力して処していける地域をつくれればと念じている。

浦田 弘二